

クリーンセンター焼却炉内部の 状況を調査

総務常任委員長 浅見 武志

当委員会は、平成20年12月8日、所管する生活環境安全課の当面の課題について調査した。

調査項目

焼却炉内部状況調査

調査経過

玉村町クリーンセンターは、平成2年4月から稼働している。想定人口を2万7500人として、昭和63年から約8億9000万円で工事が始まり、8時間で30トンの可燃ゴミが焼却できる施設を建設した。

成7年度から改修工事を行い、現在は24時間で90トンの可燃ゴミが焼却できる施設に改造された。

近年のゴミの質は、高カロリーのゴミが多く、焼却炉の側壁が膨らんでしまうなどの状態が見られる。炉の本体が痛むことを防ぐため、定期的（2年に1度程度）に側壁煉瓦を交換しなければならぬ。

現在1号炉の壁の積み替え工事（平成20年12月1日～11日、約590万円）を行い、年明けに2号炉の工事（平成21年1月15日～23日、約525万円）を行う予定である。

考察

実際に焼却炉内に入ると、煉瓦の劣化がかなり進んでいる状況が確認できる。ゴミの焼却施設は重要な施設であり、生活に密接に結びついている。今後とも維持管理をしっかりと行うことを望む。

ゴミの高カロリー化により、煉瓦の劣化が進んでいる。今の生活を考えるとやむを得ないが、収集方法やゴミの分別により、改善できないか対応策を考えるべきだ。



防護服を着用し、いざ焼却炉内へ



炉内部の現状を確認

スマートインターチェンジの 周辺開発を調査

経済建設常任委員長 村田 安男

当委員会は、平成20年11月18日新潟県妙高市「道の駅あらい」「スマートインターチェンジあらい」を視察し、周辺開発について調査した。

調査項目

スマートインターチェンジ周辺開発における先進的事例

調査経過

平成23年度末完成予定として計画されている東毛広域幹線道路と、関越自動車道との接合地点におけるスマートインターチェンジ建設計画に基づき、周辺開発の課題について調査した。

①「道の駅あらい」の概要
平成12年に国道と高速道

路（上信越自動車道 建設予定地との中間地にオープン。

○総事業費 41億円

○施設概要

管理棟、飲食店 4店、直売所 2店、コンビニ、ホテル

ホテル

投資金額の大半は、土地取得費である。上屋建物は進出店舗が建設している。

○全店舗の来店者数

年間 300万人（計画50万人）

②「スマートインターチェンジあらい」の概要

○高速道路路線名 上信越自動車道

○連結位置 新潟県妙高市（人口3万7800人、面積4.45km²）

○連結施設 市道新井イン

ターチェンジ上下線

○供用開始 平成18年10月1日

○運用車種 普通車、中型車、大型車、特大型

○運用時間帯

午前6時～午後10時

○利用台数

平成17年 392台/日

平成18年 536台/日

平成19年 654台/日



新鮮な海鮮物も販売されている「道の駅あらい」

考察

スマートインターチェンジと東毛広域幹線道路の開通は、玉村町の交通事情を一変させると思われる。

この機をとらえ、玉村町の将来構想について、地元住民や商工会、JANAなどと協議を行い、見直す必要がある。

また、高崎市との連携において、積極的な協議も必要ではないか。

農業委員会と農政懇談会を実施



平成20年12月18日、農業委員会と経済建設常任委員会との農政懇談会が行われました。

農業委員会から提出された「農業施策に関する建議書」に基づき、意見交換を行いました。

建議項目は、次の6項目です。

- ①生産資材（原油・肥料・飼料）高騰対策
 - ②耕作放棄地、遊休農地の解消に向けた支援
 - ③食農教育の推進
 - ④バイオマスの研究
 - ⑤集落営農組合法人化の指導と支援
 - ⑥飼料用米導入の検討
- 農業を取り巻く厳しい現実のなか、多くの委員から活発な意見が出されました。
- 今後は、これらの意見をふまえ、実のある協議を行っていく方針です。